

国家開発枠組と人口問題の統合  
アジア・アフリカ国会議員能力強化プロジェクト Part II

公益財団法人 アジア人口・開発協会 (APDA)



UGANDA



2014年2月10-13日  
ウガンダ | Uganda

2014年2月10-13日

国家開発枠組と人口問題の統合  
アジア・アフリカ国会議員能力強化プロジェクト Part II

# UGANDA

## P. 3

プロジェクトについて



- 母子保健の改善  
ムラゴ病院
- 若者の能力開発とリプロダクティブ・ヘルス (RH)  
ナイル職業訓練センター  
ナグル青少年センター  
リプロダクティブ・ヘルス・ウガンダ (RHU)

## PP. 4-5

視察

## PP. 6-7

視察

- 食料安全保障  
ネリカ米振興計画プロジェクト
- 接続可能な開発と貧困削減  
ウガンダ産業研究所 (UIRI)
- 人口と開発に関する国会議員ネットワーク  
ウガンダ国会

- 開会式
- Session1  
世界の人口動向と人口問題への取り組み
- Session2  
人口プログラムの優良事例と課題

## PP. 8-9

会議

## PP. 10-11

会議

- Session3  
人口問題に関する政策と立法
- Session4  
IT のインパクト：説明責任・透明性とグッドガバナンス
- Session5  
視察結果の検証：人口問題と 2015 年以降開発アジェンダの統合
- Session6  
宣言文採択に向けた討議
- 閉会式



## PP. 12-15

宣言  
プログラム  
参加者リスト

# プロジェクトについて

1999年にオランダ・ハーグで開かれた「国際人口開発会議（ICPD）5年評価のための国際国会議員フォーラム（IFP）」で、「人口問題は決して強制できる問題ではなく、人々の理解に基づいてその解決が図られなければならないことから、国民の代表である国会議員が重要な役割を果たさなければならない。各国の優良事例を共有し、ICPD行動計画（PoA）を進展させるためには、国会議員のネットワーク化が必要である」という議決がなされました。

公益財団法人アジア人口・開発協会（APDA）は、世界最初の人口と開発に関する超党派議員フォーラムである日本の国際人口問題議員懇談会（JFPF）事務局、また世界最初の地域議員フォーラムである人口と開発に関するアジア議員フォーラム（AFPPD）議長事務所として、世界の議連のネットワーク化のために努力を続けています。

日本は世界で初めて人口と開発に関する議員活動を創始し、この日本の活動の中から世界中の人口と開発に関する国会議員活動が生まれました。その後、議員活動を実際のプログラムの実施を通じて支援するために、国連人口基金（UNFPA）に日本政府信託基金（JTF）が設立され、世界の開発途上国を中心とする国会議員のネットワーク化を推進する上で重要な役割を担っています。

今回の事業は、このJTFで実施されたものです。2009年～2011年の3年にわたりAPDAが実施した、先進国および途上国の国会議員の連携によるODAの透明性や有効性の向上を目的とした事業の成功を受け、より具体的な国会議員の役割および責任を協議するプロジェクトへ移行し、昨年のカンボジアでのプロジェクト Part I に続くPart IIとして実施しました。

また、今回はAPDAが初めてアフリカで実施した国会議員会議および視察事業であり、ウガンダ食料・人口・開発議員連盟（UPFFSP&D）との共催で開催されました。事業には2か国の国会議長を含む、アジア、アフリカ、ヨーロッパ15カ国からの38人の国会議員および人口・開発国内委員会代表が参集し、基金の目的である国会議員のネットワーキングと、そのネットワークにおける日本のイニシアティブを維持・拡大するという当初の目的を十分発揮したものとなりました。

事業の成功を受け、ケニア、ガーナ、ザンビアなどから、来年は我が国で実施したいという要請が寄せられています。





# 母子保健の改善 若者の能力開発とリプロダクティブ・ヘルス(RH)

## ムラゴ病院

世界的に見れば、妊産婦死亡は1990年の年間54万3000人から、2010年には28万7000人と、ほぼ半減しました。しかし、いまだに2分ごとに1人の女性が、妊娠や出産に関する原因で命を落とし、そのうちの85%をサハラ以南のアフリカと南アジアが占めています(それぞれ56%、29%)。家族計画を含むRHサービスが利用できるようになり、技能を持った医療関係者が出産に立ち会い、緊急産科医療が提供できれば、その多くを防ぐことができます<sup>1)</sup>。



ウガンダの人口増加率は約3%、合計特殊出生率(TFR)は6.38と、出生による人口増加率が最も高い国の一つです。このムラゴ病院だけでも、毎月2000人以上が出産し、年間で3万人が生まれています。

母子保健サービスとして、家族計画、予防接種、産後ケアなどが提供されています。



ベッド数2000のムラゴ病院ですが、実際は床に寝ている人を含め、8000人が収容されています。医師、訓練された助産師、治療のための薬剤が不足しています。

## ナイル職業訓練センター

現在、世界人口72億人のうち、10~24歳の若者人口が18億人を超え、そのほとんどが途上国に暮らしています。このかつてない規模の若者人口が、RHの満たされないニーズに直面することになれば、望まない妊娠やHIV等の感染症が急増する恐れがあります。持続可能な開発のためには、若者がRHサービスを利用できるようにし、彼らの能力を引き出すことが何よりも重要です。



若者向けの能力開発を目的として、木工、配管、板金、自動車整備、裁縫、料理、給仕サービス、ネイルアート等の幅広いコースが提供されています。



美容師養成コースの様子



日本製の車両で整備の技術を磨いています。



<sup>1)</sup> [妊産婦死亡の動向: 1990~2010 (Trends in Maternal Mortality: 1990-2010)], 世界保健機関(WHO)・ユニセフ(UNICEF)・国連人口基金(UNFPA)・世界銀行(WB)、2012年



日本発の母子手帳も配布されています。



フィスチュラ科では、昨年だけで600人のフィスチュラ患者を治療しました。常勤の外科医が4人しかいないため、まだ多くの患者が診察を待っています。フィスチュラを防ぐためにも、医療施設での出産を呼びかけています。



産科病棟では、母乳育児の重要性と、退院までに基本的な予防接種を奨励するポスターが各所に掲げられています。

## ナグル青少年センター



多くの若者がRHサービスと情報を求めて集まっています。



葉酸欠乏性貧血予防のために、鉄・葉酸の錠剤を配布しています。

## リプロダクティブ・ヘルス・ウガンダ (RHU)



国際家族計画連盟 (IPPF) の加盟団体として、50年以上にわたり若者のRHに関する啓発活動とサービスの提供に取り組んでいます。





# 食料安全保障 持続可能な開発と貧困削減 人口と開発に関する国会議員ネットワーク

## ネリカ米振興計画 プロジェクト

アフリカは、このまま増加し続ける人口を支えることはできません。本事業の共催組織であるウガンダ食料・人口・開発議員連盟（UPFFSP&D）は、その名前にあるとおり、人口と食料安全保障の本質的な重要性を認識し、この分野で熱心に活動を続けています。今回の事業を通して、食料安全保障を含む持続可能な開発に向け、人口の安定化が必須の条件であることを再確認し、そのための国会議員の具体的な役割について協議しました。



ネリカ米振興の最前線で活動する「ミスター・ネリカ」こと坪井達史JICA専門家（右）。



「稲研究・研修センター」時田邦浩チーフアドバイザー（左）



国際協力機構（JICA）が主導しているネリカ米振興計画プロジェクトは、品質と生産性の向上、農村部の所得の拡大、コメの国内自給の達成による食料安全保障の確保に貢献しています。

## ウガンダ産業研究所 (UIRI)

農業以外の産業基盤が弱いウガンダでは、収入源の多様化を進め、所得向上と貧困削減を図っています。ウガンダは、ミレニアム開発目標（MDGs）目標1「極度の貧困と飢餓の撲滅」の、ターゲット1A「2015年までに1日1ドル未満で生活する人口比率の半減」を2015年の期限を前に達成しました。



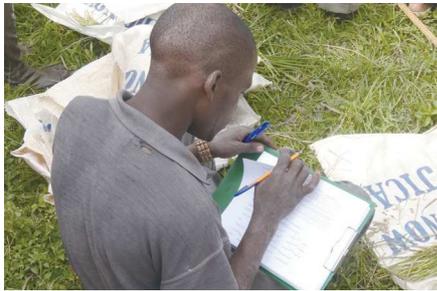
新産業の研究・開発に取り組む公的機関として、機械、電気、土木工学やITに関わる研修など、人材育成を行っています。



果汁飲料や牛乳製品などの食品開発も手がけています。



研究所で製作された手織物や工芸品も販売されています。



日本は稲作技術に関する豊富な経験から、品種開発や人材育成のための技術協力を行っています。



水田の整備は巨大な投資を必要とし、決して容易なことではないことから、陸稲品種が中心となっています。



ネリカ米農家への技術移転に取り組む東京農大出身の青年海外協力隊員と佐崎淳子UNFPA東京事務所長(中央)



ネリカ米は、アフリカ種のオリザ・グラベリマとアジア種のオリザ・サティバを掛け合わせたもので、収量が高く、アフリカの気候に適合し、病虫害耐性を持ったコメの品種です。

## ウガンダ国会

日本の国際人口問題議員懇談会（JPFP）は、人口・開発に関する国会議員活動において主導的な役割を果たし、その積極的な働きかけによって、アジア、ラテンアメリカ、アフリカ&アラブ、ヨーロッパ地域に人口・開発議員フォーラムが創設されました。アフリカ&アラブ議連を基盤として、新たに人口と開発に関するアフリカ議員フォーラム（APF）が設立されています。



APF議長およびUPFFSP&D議長を務めるクリス・バリヨムシ議員(左)。



サラヤ株式会社とユニセフが手洗いの普及活動を支援しています。





開会式



レベッカ・カダガ・アリトゥワ  
国民議会議長  
(ウガンダ)



クリス・バリヨムシ  
UPFFSP&D議長/APF議長  
(ウガンダ)



高階恵美子 参議院議員  
(日本)



タビワ・ジャムバ  
UNFPA国連共同人口プログラム  
コーディネーター  
(ウガンダ)

Session 1

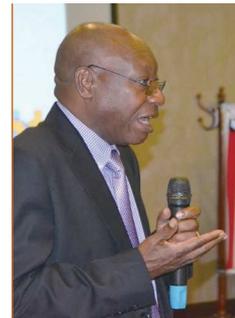
世界の人口動向と人口問題への取り組み



フロリアン・ボドッグ議員  
(ルーマニア)



ラム・ブラカッシュ議員 (インド)  
右はマンモハン・シャルマインド人口・開発議員連盟 (IAPPD) 事務局長  
(インド)



ヨサム・ムシングジ  
人口・開発パートナーズ・  
アフリカ地域 (PPD-ARO) 局長  
(ウガンダ)



議長：  
ガブリエル・ヌチセセラナ  
国会議長  
(ブルンジ)



左から、ラム・ブラカッシュ議員 (インド)  
ガブリエル・ヌチセセラナ国会議長 (ブルンジ)  
フロリアン・ボドッグ議員 (ルーマニア)  
ピーター・J・イベンベ RHUプログラムディレクター  
(ウガンダ)



フレドリック・オウタ議員 (ケニア)  
右は藤田順三 駐ウガンダ共和国特命全権大使 (日本)



アルム・サンタ議員  
(ウガンダ)



ミルトン・ムワマ議員  
UPFFSP&D事務総長  
(ウガンダ)

会議

アジア、アフリカ、ヨーロッパ15か国の国会議員、政府高官、人口と開発に関する国内委員会代表、国際機関およびNGO、専門家等、総勢60人が参加し、人口・開発問題に関する優良事例や教訓を共有し、この重要な視点を各国の開発政策に統合するために、具体的な協議を行いました。



Session 2

人口プログラムの優良事例と課題



ベティ・キャドンド  
人口局家族保健部長  
(ウガンダ)



ピーター・J・イベンベ  
リプロダクティブ・ヘルス・ウガンダ (RHU)  
プログラムディレクター  
(ウガンダ)



フローレンス・タゴラ  
UNFPAウガンダ  
人口・開発チームリーダー  
(ウガンダ)



議長：  
クワシ・アギエマン・ギャン・トゥトゥ議員  
(ガーナ)



ソフィー・ビジリマナ上院議員 (ブルンジ)  
左はサミュエル・アデイ国会職員 (ガーナ)



サラ・ネタリシレ・カヤギ議員  
UPFFSP&D財務担当  
(ウガンダ)



キルンダ・スレイマン・  
バレジュサ議員  
(ウガンダ)



カサンバ・マチアス議員  
UPFFSP&D広報担当 (ウガンダ)  
右はテムワ・ニレンダ国会職員 (ザンビア)



Session 3

人口問題に関する政策と立法



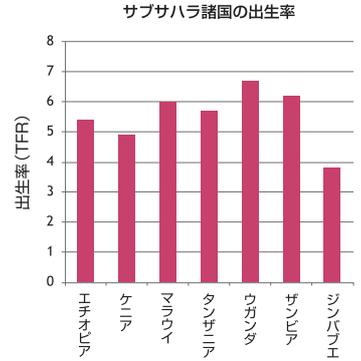
議長：  
ヘレン・クエンベ議員  
(シエラレオネ)



ヴォネカム・バンタヴォン議員 (ラオス)  
右はブンラート・ロンドゥアンチャン  
ラオス人口・開発議員連盟 (LAPPD) 事務局長 (ラオス)



ボニフェス・ムタレ議員  
(ザンビア)



Session 5

視察結果の検証：人口問題と2015年以降開発アジェンダの統合



ティサ・カラリヤデ  
児童開発・女性担当大臣  
(スリランカ)



ダンテ・アントニオ・ティネオ議員  
(フィリピン)



ポール・チビング議員  
保健・人口委員長  
(マラウイ)



ニヤキコンゴロ・ローズマリー議員  
(ウガンダ)



議長：  
フィデリス・モロオ議員  
(ボツワナ)

会議

閉会式



佐崎淳子  
UNFPA東京事務所長  
(日本)



サム・テラモ  
IPPFリエゾンオフィス駐在代表  
(エチオピア)



増子輝彦 参議院議員  
JPPF幹事長  
(日本)



エリオダ・トゥムセグ  
保健担当国務大臣  
(ウガンダ)

Session 4 ITのインパクト：説明責任・透明性とグッドガバナンス



アリンダム・チャクラパティ  
エアテル・ウガンダ  
プロジェクトマネジャー  
(ウガンダ)



デニス・カコンゲ  
エアテル・ウガンダ  
法務・統括部長  
(ウガンダ)



議長：  
カサンバ・マチアス議員  
UPFFSP&D広報担当  
(ウガンダ)



Session 6 宣言文採択に向けた討議



議長：  
フレドリック・オウタ議員  
(ケニア)

参加者による熱心な討議により、アフリカが直面する課題と対処、  
また国会議員ネットワークの重要性を強調した宣言文が採択されました。



## 国家開発枠組と人口問題の統合 アジア・アフリカ国会議員能力強化プロジェクト Part II

2014年2月13日  
ウガンダ



### 宣言

私たちアジア・アフリカ・ヨーロッパ15カ国の代表議員は、ウガンダに参集し、2014年国際人口開発会議(ICPD) 20周年の目標年とその後に向け、本APDA-UPPFSP&D プロジェクトを通じ、人口問題の解決に向け各国の開発アジェンダに人口問題を優先的に取り込み、援助効果を最大にするための努力を強化することを宣言する。

#### I. 以下のことを再確認する

- 1) 人口プログラムは各国開発の基盤であり、人口の安定化なくして持続可能な開発の実現はない。
- 2) 人口プログラムは人権を尊重する環境形成を促進し、人々に責任ある将来への選択を可能にするものである。
- 3) 性およびリプロダクティブ・ヘルスを含む人口プログラムは、よく情報を得た上での選択に基づいて行われており、一人ひとりの福利、特に貧困の中で生活している人々の福利の改善を目的としているものである。
- 4) 人口プログラムの実施によって女性の地位や権能が向上し、その結果社会・経済発展の増進、貧困の削減につながる。
- 5) 人口プログラムは、持続可能な開発に向けた最も費用対効果の高い介入である。

#### II. これらの事実に基づき、以下の政策提言を行う

- 1) 2015年に採択される、2015年以降の開発アジェンダにおいて、人口問題への取り組みが中心的な位置を占めるよう、自国政府に働きかける。
- 2) 私たち国会議員は、各国国会において、性およびリプロダクティブ・ヘルスを推進し、持続可能な開発を達成するための法と政策および人口プログラムを検討し、策定し、広く周知するようロビー活動を行う。
- 3) 私たちは、すべての人がリプロダクティブ・ヘルスサービスを利用できるようになるという目標を達成するために、全体的な健康の増進を図るユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(UHC) の枠組みの強化を通じ、努力する。
- 4) 私たちは自国政府に対し、国家開発政策および国際支援プログラムの基本原則として、人口と持続可能な開発のためのプログラムとUHCを統合するよう要請する。
- 5) 私たちは、援助機関を含む各国機関、国際機関に対し、政策およびプログラムを形成し、同僚国会議員に対して説得を行い、そして選挙区におけるこれらの活動に対する支援を獲得するために利用できる、説得力のある、証拠に基づいた、簡明なデータを提供するよう求める。
- 6) 良い統治、透明性、説明責任を果たすためにICT分野との効果的な協力を呼びかける。
- 7) 人口と食糧安全保障のバランスを築くためにUHCを通じ適切な性およびリプロダクティブ・ヘルスへの対処を促進するとともに食糧安全保障の耐久性を強化するためにネリカ(New Rice for Africa)米のような適切な対処を促進する。
- 8) 私たちは、各国、地域、そして国際的な調整と協力を推進し、優良事例の共有に努める。この目的のために、人口と開発に関する地域議連間の連携を強化し、ストックホルムで開かれるIPCIの準備過程に参加することすることが特に重要である。

#### III. 結語

- 1) APDA・UPPFSP&Dの事業の成功を祝し、両者に感謝するとともに、この人口分野において重要な役割を果たす事業を支援したウガンダ国会および日本政府、UNFPA、IPPFをはじめとする援助機関に感謝を表明する。
- 2) 民意に基づき、草の根のニーズをくみ上げて人口問題を解決に向ける上で、国会議員の役割と活動、そして彼らが効果的に活動するための基盤は必要不可欠である。2014年のICPD目標年の後も、人口と開発に関する国会議員活動に私たちはコミットする。
- 3) APDAがこれまで30年以上にわたってアジアとアフリカにおける国会議員活動強化において果たしてきた成果を再確認し、その活動を継続し、より拡大するためにも、国際機関をはじめとする援助機関に支援の拡大・継続を嘆願する。

# プログラム

## 視察

2014年2月10日

ウガンダ産業研究所 (UIRI)  
ナイル職業訓練センター

## 会議

2014年2月11日

- 開会式  
[挨拶]  
クリス・バリヨムンシ UPFFSP&D 議長 / APF 議長 (ウガンダ)  
高階恵美子 参議院議員 (日本)  
タピワ・ジャムバ UNFPA 国連共同人口プログラムコーディネーター  
[開会宣言]  
レベッカ・カダガ・アリトゥワラ 国民議会議長 (ウガンダ)
- セッション 1: 世界の人口動向と人口問題への取り組み  
フロリアン・ボドッグ 議員 (ルーマニア)  
ラム・プラカッシュ 議員 (インド)  
ヨサム・ムシングジ PPD-ARO 局長  
[ディスカッション] 議長: ガブリエル・ヌチセゼラナ 国会議長 (ブルンジ)
- セッション 2: 人口プログラムの優良事例と課題  
ベティ・キヤドンド ウガンダ人口局家族保健部長  
ピーター・J・イベンベ RHU プログラムディレクター  
フローレンス・タゴラ UNFPA ウガンダ人口・開発チームリーダー  
[ディスカッション] 議長: クワシ・アギエマン・ギャン・トゥトゥ 議員 (ガーナ)
- セッション 3: 人口問題に関する政策と立法  
ヴォネカム・パンタヴォン 議員 (ラオス)  
ボニフェス・ムタレ 議員 (ザンビア)  
[ディスカッション] 議長: ヘレン・クエンベ 議員 (シエラレオネ)
- セッション 4: IT のインパクト: 説明責任・透明性とグッドガバナンス  
アリンダム・チャクラパティ エアテル・ウガンダ プロジェクトマネージャー  
[ディスカッション] 議長: カサンバ・マチアス 議員 (ウガンダ)  
エアテル・ウガンダ主催ディナーレセプション

## 視察

2014年2月12日

ムラゴ病院  
リプロダクティブ・ヘルス・ウガンダ (RHU)  
ナグル青少年センター  
ウガンダ国会  
ナムロンゲ ネリカ米振興計画プロジェクト  
UNFPA ウガンダ主催ディナーレセプション

## 会議

2014年2月13日

- セッション 5: 視察結果の検証: 人口問題と 2015 年以降開発アジェンダの統合  
ティサ・カラリヤデ 児童開発・女性担当大臣 (スリランカ)  
ダンテ・アントニオ・ティニオ 議員 (フィリピン)  
ポール・チビング 議員 / 保健・人口委員長 (マラウイ)  
ニャキコンゴロ・ローズマリー 議員 (ウガンダ)  
[ディスカッション] 議長: フィデリス・モラオ 議員 (ボツワナ)
- セッション 6: 宣言文採択に向けた討議  
議長: フレドリック・オウタ 議員 (ケニア)
- 閉会式  
[挨拶]  
クリス・バリヨムンシ UPFFSP&D 議長 / APF 議長 (ウガンダ)  
佐崎淳子 UNFPA 東京事務所長  
サム・テラモ IPPF リエゾンオフィス駐在代表  
増子輝彦 参議院議員 / JPPF 幹事長 (日本)  
[閉会挨拶]  
エリオダ・トゥムセゲ 保健担当国務大臣 (ウガンダ)  
ウガンダ保健担当国務大臣主催ディナーレセプション

■国会議員・国内委員会代表

フィデリス・モラオ 国会議員	ボツワナ 	ヘレン・クエンベ 国会議員	シエラレオネ 
ガブリエル・ヌチセゼラナ 国会議長	ブルンジ 	スアリホ・コロマ 国会議員	シエラレオネ 
ソフィー・ビジリマナ 上院議員	ブルンジ 	ヘンリー・P・リー シエラレオネ人口・開発議員連盟 (SLPAGPD) アドボカシーコーディネーター	シエラレオネ 
マニレレカナ・シルディー 儀典長	ブルンジ 	ティサ・カラリヤデ 児童開発・女性担当大臣	スリランカ 
ニヨンガボ・サーシシー 国会職員	ブルンジ 	レベッカ・カダガ・アリトゥワラ 国民議会議長	ウガンダ 
ンチラデクラ・ジーン・クロウデ 国会職員	ブルンジ 	エリオダ・トゥムセゲ 保健担当国務大臣	ウガンダ 
カムウェフブサ・マテソ・モーゼ 国会職員	ブルンジ 	クリス・バリョムンシ 国会議員/UPFFSP&D議長/APF議長	ウガンダ 
クワシ・アギエマン・ギャン・トゥットゥ 国会議員	ガーナ 	ベティ・アオル・オキャン 国会議員/UPFFSP&D副議長	ウガンダ 
サミュエル・アデイ 国会職員	ガーナ 	ミルトン・ムワマ 国会議員/UPFFSP&D事務総長	ウガンダ 
ラム・ブラカッシュ 国会議員	インド 	カサンバ・マチアス 国会議員/UPFFSP&D広報担当	ウガンダ 
マンモハン・シャルマ IAPPD事務局長	インド 	サラ・ネタリシレ・カヤギ 国会議員/UPFFSP&D財務担当	ウガンダ 
増子 輝彦 参議院議員/JPPF幹事長	日本 	ニャキコンゴロ・ローズマリー 国会議員	ウガンダ 
高階 恵美子 参議院議員	日本 	ナマラ・グレース 国会議員	ウガンダ 
フレドリック・オウタ 国会議員	ケニア 	キルンダ・スレイマン・バレジュサ 国会議員	ウガンダ 
ヴォネカム・パンタヴォン 国会議員	ラオス 	カフェーロ・シキトレコ 国会議員	ウガンダ 
ブンラート・ロンドゥアンチャン LAPPD事務局長	ラオス 	アルム・サンタ 国会議員	ウガンダ 
ポール・チビング 国会議員/保健・人口委員長	マラウイ 	ナルベガ・マリアム 国会議員	ウガンダ 
ダンテ・アントニオ・ティニオ 国会議員	フィリピン 	ボニフェス・ムタレ 国会議員	ザンビア 
フロリアン・ボドッグ 国会議員	ルーマニア 	テムワ・ニレンダ 国会職員	ザンビア 

\*肩書はすべて2014年2月当時のものです。

■UNFPA・IPPF

佐崎 淳子 日本   
UNFPA東京事務所長

タビワ・ジャムバ ウガンダ   
UNFPA国連共同人口プログラムコーディネーター

フローレンス・タゴラ ウガンダ   
UNFPAウガンダ人口・開発チームリーダー

サム・テラモ エチオピア   
IPPF リエゾンオフィス駐在代表

ピーター・J・イベンベ ウガンダ   
RHUプログラムディレクター

■リソースパーソン・協力機関

ヨサム・ムシングジ ウガンダ   
人口・開発パートナーズ・アフリカ地域 (PPD-ARO) 局長

ベティ・キャドンド ウガンダ   
人口局家族保健部長

アリンダム・チャクラパティ ウガンダ   
エアテル・ウガンダ プロジェクトマネジャー

デニス・カコンゲ ウガンダ   
エアテル・ウガンダ 法務・統括部長

チャリティ・ルワプトミゼ ウガンダ   
エアテル・ウガンダ CSR担当

藤田 順三 日本   
駐ウガンダ共和国日本国特命全権大使

新宮 さやか 日本   
在ウガンダ日本大使館三等書記官 (広報・政務・総務)

ルクワゴ・アスマン ウガンダ   
保健省事務次官

ブラーン・バンウォル ウガンダ   
UNICEFウガンダ

■事務局

ワマラ・ブユンゴ・ムサ ウガンダ   
UPPFSP&Dコーディネーター

キズィボ・エルビス ウガンダ   
UPPFSP&D

楠本 修 日本   
APDA常務理事／事務局長

恒川 ひとみ 日本   
APDA

ファルフ・ウスモノフ 日本   
APDA

太田 晴子 日本   
通訳



共催

公益財団法人 アジア人口・開発協会 (APDA)  
ウガンダ食料・人口・開発議員連盟 (UPFFSP&D)

後援

日本信託基金 (JTF)  
国連人口基金 (UNFPA)  
国際家族計画連盟 (IPPF)



公益財団法人 アジア人口・開発協会

〒105-0003

東京都港区西新橋2-19-5-8F

TEL: 03-5405-8844 FAX: 03-5405-8845

E-mail: apda@apda.jp

<http://www.apda.jp>

